

説明的文章

チェック

▼次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

現代の私たちは、文章を書くときに、日ごろ会話で使うのとほぼ同じ言葉遣いで書いています。A、現代でも話し言葉と書き言葉には違いがあります。例えば、「あんまり近寄ったら危険じゃないかな。」は、話し言葉です。これを書き言葉に直すと、「あまり近寄ると危険ではないか。」といった文になるでしょう。B、現代の話し言葉と書き言葉は、それほど大きく違ってはなりません。

ところが、明治時代の初めまでは、^①両者は、もつとずっと大きく違っていたのです。^②当時の人々も、現代の私たちと同じように、「私も大人になったので、分別もついたよ。」といった感じで話をしていたと思われます。しかし、それを文章に書くときには、「我も大人になりしかば、分別もつきたり。」といった古めかしい言葉で表現していたのです。この古めかしい言葉遣いで書かれた文は、文語文と呼ばれます。

もつと話をするように書いたらいけないか。そう思った人々が、書き言葉を話し言葉に近づけようとする運動を始めました。これを言文一致運動といいます。この運動は、主に小説家たちによって行われました。まず、二葉亭四迷という小説家が、『浮雲』という作品で言文一致の小説に挑戦しました。その後、山田美妙、森鷗外、夏目漱石などの小説家たちも、次々にCの文体で作品を発表したのです。同時に新聞などでも、この運動は行われていきました。

そうした努力の結果、話し言葉に近い書き言葉ができあがっていったのです。それは、文語文に対して口語文と呼ばれています。現代の私たちが書き記す文章は、この明治時代の中期から後期にかけて作られた口語文の伝統を受け継いでいるのです。

氏名

年組

番ID

5問

問1 A・Bにあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア AⅡただし BⅡだから
- イ AⅡもちろん BⅡしかし
- ウ AⅡしたがって BⅡあるいは
- エ AⅡそもそも BⅡところで

問2 線①「両者」は何を指していますか。文中から十字以内で書き抜きなさい。

問3 線②「当時」とはいつのことですか。文中から七字で書き抜きなさい。

問4 Cにあてはまる言葉を文中から五字以内で書き抜きなさい。

問5 この文章の要旨として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 現代の書き言葉は、明治時代の文語文にかなり近いものである。
- イ 現代の話し言葉は、明治時代の話し言葉と大きく異なるものである。
- ウ 現代の書き言葉は、明治時代に作られた口語文を基本としている。
- エ 現代の話し言葉は、明治時代に作られた文語文を基本としている。

説明的文章

チェックプラス

▼次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

クスノキは、高さ二十メートル、幹の直径二メートルほどにまで育つ、なかなか大きな常緑樹である。①昔から家具や建築材、仏像の彫刻材として盛んに用いられてきた。クスノキがそのように重宝されたのには、ちゃんとした理由がある。

クスノキの枝や葉には、独特の匂いがある。この匂いは、カンフォルという化学物質の匂いであるが、無駄に匂っているわけではない。葉を食べる虫を追い払う効果があるのだ。そのため、クスノキを材料にして作った家具や家、仏像も、虫に食われてダメになるといことが少ない。クスノキが様々な物を作る材料として重宝されたのには、虫がつきにくいという立派な理由があったわけである。クスノキの枝や葉からは、防虫剤も作られてきた。シヨウノウとよばれる防虫剤である。ナフタリンが普及する以前は、広く使われていた。

クスノキは、という化学物質を作り出すことによって、虫に食べられないよう、自己を防御している。このようなやり方を、化学的防御とよぶ。

しかし、このクスノキの防衛策も完璧ではない。②この防衛策を突破して、クスノキの葉を主食にするものが現れた。アオスジアゲハというチョウト、クスサンというガである。なぜ、ほかの昆虫が食べない、(多くの昆虫にとって嫌な匂い)のする葉を、わざわざ食料として選んだのだろうか。おそらくそれは、ライバルがいらないからであろう。ほかの昆虫が見向きもしなければ、自分たちだけで食料を独占できる。これは種の生存に有利にはたらくはずだ。

植物と昆虫は、進化の過程で互いに影響し合いながら、複雑な関係を作ってきた。④クスノキとアオスジアゲハとクスサンの関係も、その一例である。

氏名

年

組

番

ID

7問

問1 — 線①「昔から……盛んに用いられてきた」とありますが、なぜですか。次の□□にあてはまる言葉を文中から書き抜きなさい。

から。

問2 にあてはまる言葉を文中から六字で書き抜きなさい。

問3 — 線②「この防衛策」とありますが、どのようなものですか。次の□□にあてはまる言葉を文中から書き抜きなさい。

・

を作り出すことによって、虫から自分を守る

という方法。

問4 — 線③「ライバル」とありますが、具体的には何ですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア クスノキの葉
 - イ クスノキの葉を食べるほかの昆虫
 - ウ 人間
 - エ ほかのアオスジアゲハやクスサン
-

問5 — 線④「クスノキとアオスジアゲハとクスサンの関係」は、何の例として挙げられていますか。次の□□にあてはまる言葉を文中から書き抜きなさい。

・植物と昆虫が

で互いに影響し合いながら
作ってきた

の例。

説明的文章

アドバンス

▼次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

「見ることが出来る」という意味で「見れる」という言葉が使われ出したのは、いつごろなのだろう。A「ら抜き言葉」の問題だ。私は今年六十歳になるが、私の私が大學生だったころ、友人と「見れる」という言い方は変だ。「いや、変ではない。」という議論をした記憶がある。ということは、だいたい四十年ほど前から使う人が増えてきたのだろうか。ただし、曖昧な記憶なので、断言はできない。

もちろん文法的には、「見れる」は誤りである。正しくは「見られる」というべきだ。しかし、長らく「見られる」派だった私も、最近では時として「見れる」と口に出している。ただし、文章を書くときには、「見れる」は使わない。「見られる」と書くか、B「受け身と誤解されないように「見ることが出来る」と書くようにしている。

では、「見れる」は単なる誤った日本語、つまり日本語の乱れなのだろうか。どうもそう簡単に断言することはできないようである。というのも、「見られる」のほかに「見れる」という言い方を認めると、②一つの大きな利点を得られるように思われるからだ。右に「受け身と誤解されないように」と書いたが、「見られる」しか認めないと、受け身や尊敬の「見られる」なのか、可能の「見られる」なのかを判別しにくい場合がある。しかし、「見られる」と「見れる」の両様を容認すれば、この使い分けができるのだ。もちろん受け身や尊敬の場合は「見られる」、可能の場合は「見れる」である。③「着られる」と「着れる」も、同じように使い分けられる。というわけで、私は「見れる」にはかなり寛大になってきた。しかし、最近では「変えられる」「助けられる」などを使う人も出てきた。これには未だ慣れることができない。年寄りにはCなのである。

氏名

年

組

番

ID

7問

問1 A・Bにあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア あるいは イ たとえば
- ウ つまり エ いわゆる

問2 線①「使う人が増えてきた」とありますが、何を使う人が増えてきたのですか。文中から九字で書き抜きなさい。

問3 線②「一つの大きな利点」とありますが、これはどのような利点ですか。文中の言葉を使って書きなさい。

問4 線③「『着られる』と『着れる』も、同じように使い分けられる」とありますが、「使い分ける」とは具体的にはどういうことですか。次の文中の

- a・bにあてはまる言葉をそれぞれ文中から書き抜きなさい。
- ・ a の場合は「着られる」を、
- b の場合は「着れる」を使うこと。

	a	
	b	

問5 Cにあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 革新的
- イ 象徴的
- ウ 保守的
- エ 主観的